

インターンシップ前後の学生成長測定としての PROG 法によるジェネリックスキル測定導入

キーワード：インターンシップ、評価軸、ジェネリックスキル、PROG

○齋藤 智¹⁾
新潟青陵大学¹⁾

I 目的

文部科学省の「大学等における平成 23 年度のインターンシップ実施状況調査」(以下：IS 調査)によると、調査対象大学のうち特定の資格取得に関係せず単位認定授業科目としての実施校は 544 校(70.5%)、参加学生は 62,561 名(2.2%)であった。インターンシップ(internship: IS)の必要性を認識し、就業力育成を多くの大学で実施しているにも関わらず、参加学生の評価は芳しくなく、有効性の検証も進んでいない。背景として、学生の IS 参加による効果の説明不足と成長測定の標準化された評価指標・軸が確立されていない問題が指摘されている。

このような状況の中、学校法人河合塾と株式会社リアセックが共同で開発したジェネリックスキル測定と、学生成長を支援する新タイプのプログラムとして PROG が登場し、評価基準ツールとして実施した大学等から有効性が報告されてきた。尚、PROG は、「ジェネリックスキル」を「知識を活用して問題を解決するリテラシー」と「人と自分にベストな状態をもたらそうとするコンピテンシー」から成ると捉え、測定されたジェネリックスキルは、「リテラシー」と「コンピテンシー」に 2 分して示される¹⁾。

本研究において、本学 IS に参加した学生を対象とし、PROG による学生成長性測定を試みただけでなく、補足的に本学既存の成長測定を行い、PROG の有用性の検証も行った。

II 方法

1. 対象・調査方法

対象者は、平成 25 年「地域ミッションインターンシップ」に参加した本学福祉心理学科 12 名(2 年生 9 名、1 年生 3 名)と短期大学部人間総合学科 20 名(2 年生 4 名、1 年生 16 名)である。調査方法は 2 つの方法を用いた。

① IS 実施前の 8 月と、実施後の 11 月に PROG を実施した。

② 本学の成長測定法として、情報収集力・課題発見力等 16 評価項目について 4 段階(できている、ややできている、あまりできていない、できていない)で評価する「地域ミッションインターンシップ自己評価シート」(以下：自己評価)を IS 初日と最終日に実施した。

2. 分析方法：PROG と本学の学生成長測定結果を、IS 実施前後による学生成長として単純集計した。

3. 倫理的配慮：IS 参加学生に対し、事前の実施説明会において、研究目的、守秘義務、研究協力は自由意思であること等を説明し、回答に同意を得た。

III 結果

調査対象である学生 32 名全員から協力が得られたが、福祉心理学科 3 名の学生が IS への参加日数が 10 日間に満たないことから、集計から除外した。

PROG は、「リテラシー」が事前では 7 段階評価の 3.8 であり、事後には 5.2 まで上昇した。4 つの力として 5 段階評価となっている「情報収集力」は、事前 2.2 から事後 3.2、「情報分析力」は 2.6 から 3.9、「課題発見力」3.8 から 3.9、「構想力」3.7 から 4.0 へと上昇した。「コンピテンシー」においても、事前の総合評価が 3.0 から 3.7 まで上昇した。特に「親和力」は、3.1 から 4.7、「実践力」は 2.9 から 3.9 へと上昇した。しかし、「統率力」は前後とも最低の 2.2 であった。

本学既存の学生成長測定では、IS 実施前に「できている」「ややできている」という回答中 85%以上の項目として、「傾聴力」=95%、「課題発見力」「やりぬく力」=85%であった。事後になると「傾聴力」「やりぬく力」=92%、「課題発見力」=85%に加え、「情報収集力」「質問力」=92%の 5 項目と増加した。

IV 考察

これまで IS の評価は、各大学個別で作成された評価法で行っており、標準的な IS による学生の成長測定法が無いだけでなく、他の大学や実施施設との比較検討が困難であった。

本研究において 2 種類の評価を実施し、PROG は「リテラシー」として「情報収集力」「情報分析力」の向上が見られた。これは、商店街において、さまざまな年代層や職種の方々との交流を通し、もう一つの測定項目となって「コンピテンシー」の「親和力」「実践力」の向上を反映した結果と考えられた。一方、本学既存の学生成長測定では、IS 前は「傾聴力」「課題発見力」「やりぬく力」が多数を示したが、IS 後では新たに「情報収集力」「質問力」が加わり、成長が示唆された。さらには、PROG は他大学との比較においても、「コンピテンシー」は平均的であったが、「リテラシー」は、事前では 7 段階評価の 3.8 であり、全国の学生(2013 年度末時点：235 校 86,748 名)平均 4.1 を若干下回る水準であったが、事後には 5.2 まで上昇し、今後その寄与する要因の検討が必要である。この様に、本学の既存法ではコンピテンシーの評価であるが、PROG ではコンピテンシーに加えリテラシーとの複数の視点からの評価と他大学との比較等、有用性が示された。

今回は、短期間、少人数の参加学生による検証であるが、現在 IS のタイプ別(体験型・PBL 型)に多数の学生による 3 年間の長期による検証を計画し、PROG の有用性を確認する予定である。

V 結論

PROG による学生成長測定は、キャリア教育として重要な IS 活動の評価指標・軸として有効であることが強く示唆された。

引用文献

1) 齋藤 智・木村哲夫. ジェネリックスキル測定によるインターンシップの効果検証. 日本テスト学会第 12 回大会発表論文抄録集. 2014 ; 190-193.